

前橋市自然環境調査

(鳥 類)

報告書

令和2年3月

前橋市

目 次

本 編

1. 調査の目的.....	1
2. 調査の基本方針.....	2
2.1 調査項目	2
2.2 調査内容	2
(1) 調査地点.....	2
(2) 調査時期.....	2
(3) 調査方法.....	2
3. 調査結果.....	9
3.1 調査実施日	9
3.2 調査結果	10
(1) 確認種数.....	10
(2) 重要種の確認状況	14
(3) 外来種の確認状況	20
(4) 調査地点別の確認状況.....	25
4. 過去の調査結果との比較.....	33
4.1 これまでの調査状況.....	33
4.2 比較・分析結果及び考察.....	34
(1) 比較・分析の手法.....	34
(2) 比較・分析結果.....	35
(3) 調査地点別の比較・分析結果.....	47

資料編

5. 資料編.....	1
5.1 調査ルート及び重要種・外来種確認位置.....	1
5.2 個体数優先度等一覧.....	15

1. 調査の目的

本市では、良好な環境の保全及び創造に関する基本事項について定めた環境基本条例の基本方針に基づき、環境基本計画（以下「計画」という。）を策定し、総合的かつ計画的に環境施策を推進しています。また、より良い環境を目指すため、平成30年4月を新たな計画期間の開始とする環境基本計画の改訂（平成29年度改訂）を行っています。

本計画では、良好な環境の保全及び創造に関する基本方針として5つの環境像を定めており、その一つである「生態系の保護（多様な生態系が維持され、市民に潤いと安らぎを与える自然環境が守られ、はぐくまれるまち）」を推進するための具体的な施策として、「生態系保全のための自然環境調査」が位置付けられています。

本調査は、市内に生息・生育する動植物を調査し、過去に実施した調査結果との比較・評価を行うことで、自然環境の現状及び経年変化を把握すると共に、今後の環境施策の展開に向けた基礎データを蓄積し、生態系の保全を推進することを目的としています。

これまで本市が実施した調査は、表1-2.1-1に示すとおりです。鳥類調査は、「自然環境基礎調査」（以下、「基礎調査」とします。旧市域は平成9・10年度、大胡・宮城・粕川地区は平成17年度、富士見地区は平成22年度に実施しています。）以降、その後の環境の変化等を確認する追跡調査として「自然環境調査」を継続しています。これまで、鳥類の自然環境調査は、平成15年度（以下、「平成15年度調査」とします。）、平成20年度（以下、「平成20年度調査」とします。）、平成26年度（以下、「平成26年度調査」とします。）に実施しています。

本年度調査で実施する地区は、基礎調査以降に実施していない場所であり、追跡調査は初めてとなります。

表 1-2.1-1 自然環境調査の実施年表

年度	調査名	調査分野				調査範囲										関連する環境施策等
		植物	鳥類	魚類・水生生物	哺乳類・昆虫・両生類	本庁	上川湖・下川湖	芳賀	元総社・東	清里・総社	桂置・永明・城南	大胡	宮城	粕川	富士見	
平成9～10	自然環境基礎調査	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○					環境基本計画の策定（平成12年3月）
	平成11～13年度は未実施															
平成14	自然環境調査（植物）	●				○	○	○	○	○	○					
平成15	自然環境調査（鳥類）		●			○	○	○	○	○	○					
平成16	自然環境調査（魚類・水生生物）			●		○	○	○	○	○	○					前橋市環境都市宣言（平成16年7月）
平成17	自然環境基礎調査（大胡・宮城・粕川地区）	●	●	●	●							○	○	○		環境基本計画の改訂（平成18年3月）
	自然環境調査（哺乳類・は虫類・両生類）			●		○	○	○	○	○	○					
平成18	自然環境調査（昆虫類）				●	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
平成19	自然環境調査（植物）	●				○	○	○	○	○	○	○	○	○		
平成20	自然環境調査（鳥類）		●			○	○	○	○	○	○	○	○	○		
平成21	自然環境調査（魚類・水生生物）			●		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
平成22	自然環境基礎調査（富士見地区）	●	●	●	●										○	
	自然環境調査（哺乳類・は虫類・両生類）			●		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
平成23	自然環境調査（昆虫）				●	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
平成24	自然環境調査（魚類・水生生物）			●		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
平成25	自然環境調査（植物）	●				○	○	○	○	○	○	○	○	○		環境基本計画の改訂（平成26年2月）
平成26	自然環境調査（鳥類）		●			○	○	○	○	○	○	○	○	○		
平成27	自然環境調査（哺乳類・は虫類・両生類）			●		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
平成28	自然環境調査（昆虫）				●	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
平成29	自然環境調査（魚類・水生生物）			●		○	○	○	○	○	○	○	○	○		環境基本計画の改訂（平成30年3月）
平成30	自然環境調査（植物）	●					○	○	○	○	○	○	○	○		
令和1	自然環境調査（鳥類）		●			○	○	○	○	○	○	○	○	○		

注1）「魚類・水生生物調査」は、「魚類・底生動物調査」と同義です。

注2）旧大胡町、旧宮城村、旧粕川村は、平成16年12月5日に前橋市と合併しました。

注3）旧富士見村は、平成21年5月5日に前橋市と合併しました。

2. 調査の基本方針

2.1 調査項目

調査項目は、鳥類相とします。

2.2 調査内容

(1) 調査地点

基礎調査において、本市の地理的条件、土地利用及び他のマスタープランの区分を考慮して設定した 27 地点の中から、基礎調査における環境要素等を考慮して選定した 14 地点としました。調査地点の位置は図 2.2 1 に、調査地点の環境概要は表 2.2-1(1)

から表 2.2-1(5)に示します。

各地点の調査ルートは、「資料編 1. 調査ルート及び重要種・外来種確認位置」に示します。調査ルートは、基礎調査時のルートを基本的に踏襲しましたが、下見の結果を基に、ルートを一部変更したため、ルート変更理由も併せて示しています。

(2) 調査時期

調査は、繁殖期（初夏）に 1 回、越冬期（冬季）に 1 回の計 2 回とし、実施しました。

(3) 調査方法

ラインセンサス法により、調査ルート上を時速約 1.5km の速さで歩き、ルートの左右それぞれ約 25m の範囲（両側 50m 程度）で確認した種と個体数等を記録しました。

重要種を確認した場合は、確認地点及び確認状況も併せて記録しました。また、調査時間外及び調査範囲外での確認種に関しては確認地点のみを記録しました。



写真 2.2-1 調査状況

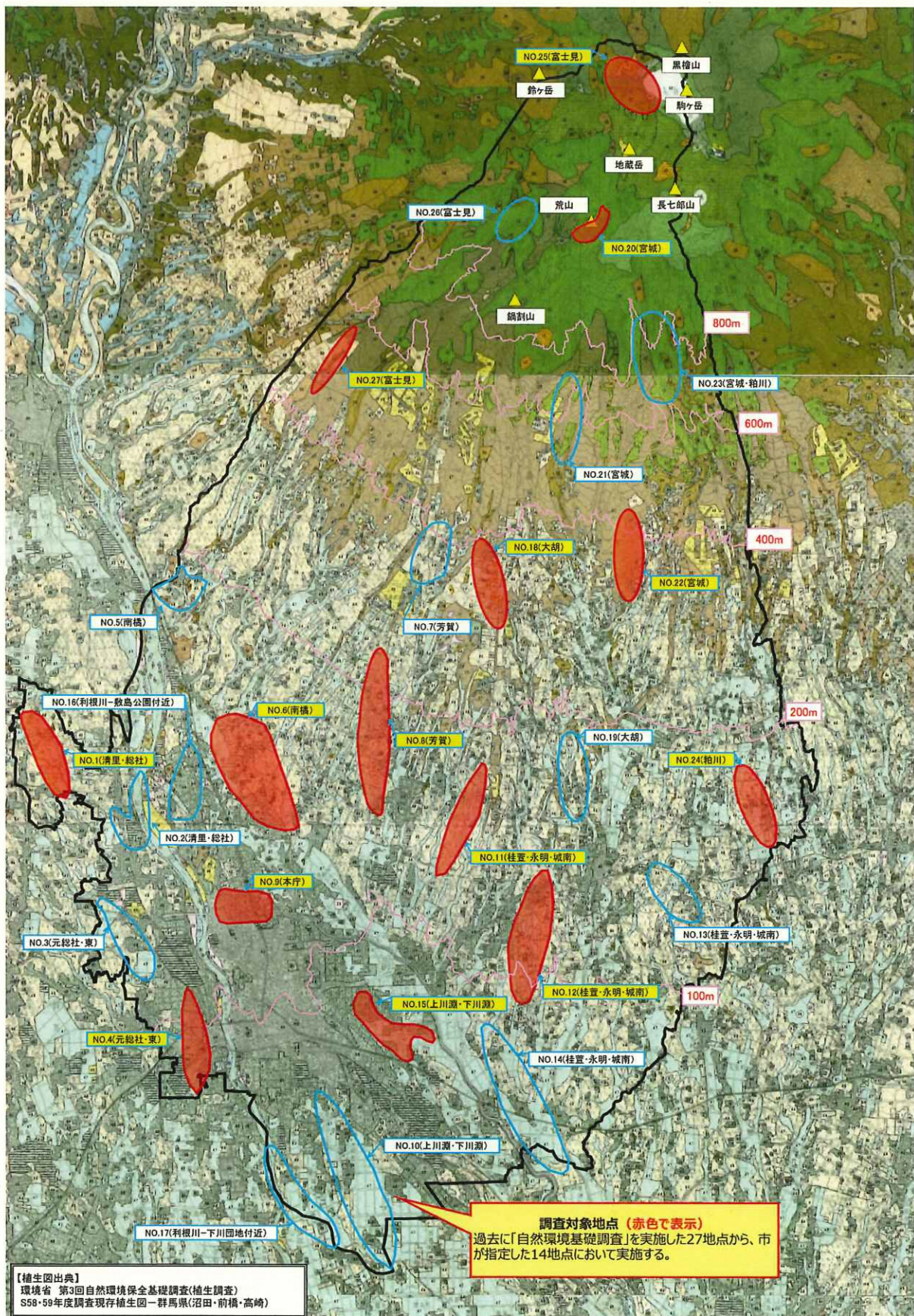


図 2.2-1 調査地点図

表 2.2-1(1) 調査地点の環境概要

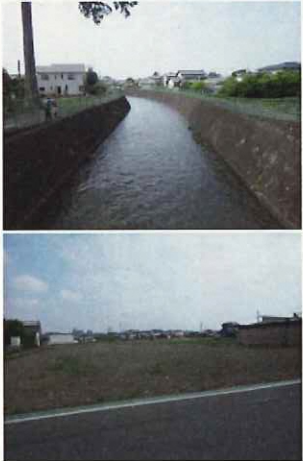
地区	地点 番号	地域区分	主な水域と 環境要素	環境写真	地点概要
清里・ 総社	No.1	田園(畑)	○水域： 八幡川 ○環境要素： 市街地、河 原、草地、田 園、竹林		・八幡川沿いのルート。 ・両岸が緩やかな斜面となっており、植物が被覆している。 ・コンクリート護岸されている部分もあり、石積み護岸もみられる。 ・過年度調査ルートの一部が私有地を通るため、今年度はルートを変更して行う。
元総社・ 東	No.4	田園・市街	○水域： 滝川 ○環境要素： 田、畑、宅地		・滝川沿いのルート。 ・両岸がコンクリート護岸であり、全体的に植生は少ない。 ・住宅地の中に小規模な畑地が点在している。
南橋	No.6	田園・市街	○水域： 桃ノ木川、赤 城白川 ○環境要素： 田、畑、宅地		・桃ノ木川、赤城白川沿いのルート。 ・桃ノ木川 は両岸がコンクリート護岸であるが、河川敷が広がっている。 ・赤城白川 は、護岸が緩やかな傾斜となっており、陸域が広く、水域が狭い。 ・両河川ともに植生が豊かである。

表 2.2-1(2) 調査地点の環境概要

地区	地点 番号	地域区分	主な水域と 環境要素	環境写真	地点概要
芳賀	No.8	山里	○水域： 藤沢川 ○環境要素： 畑、宅地		・藤沢川沿いのルート。 ・両岸ともにコンクリート護岸である所、片側だけの所、石積み護岸である所と、様々な形状がみられる。 ・全体的に多自然的な河川形状をしており、植生が豊かである。
本庁	No.9	中心市街地	○水域： 広瀬川、馬場川 ○環境要素： 河原、河畔林、市街地、広葉樹		・県庁、市役所周辺の市街地と利根川左岸河川敷で構成されるルート。 ・市街地の植生は街路樹がみられる程度である。 ・川沿いはまとまった植生がみられる。
桂萱・永明・城南	No.11	山里～田園	○水域： 寺沢川 ○環境要素： 住宅地、畑地、河原、河畔林、草地、広葉樹林		・寺沢川沿いのルート。 ・全体的に植生が豊かである。 ・ルートの最南端は広い草地と樹林となっている。

表 2.2-1(3) 調査地点の環境概要

地区	地点 番号	地域区分	主な水域と 環境要素	環境写真	地点概要
桂萱・永 明・城南	No.12	山里～田園	○水域： 荒砥川 ○環境要素： 住宅地、畑 地、河原、広 葉樹林、社 寺林		・荒砥川沿い、田園沿いのルート。 ・河川敷が広く、植生が豊かである。 ・田園が広がっており、一部に社寺林も存在する。
上川 淵・下川 淵	No.15	市街化	○水域： 広瀬川、荊 川 ○環境要素： 住宅地、畑 地、広葉樹 林		・調査地点の中央を大穴川が南流する。 ・ルートは、大穴川に沿って南北に通る林道である。 ・調査地点の大部分をスギ植林が占め、アカマツ植林や広葉樹林もみられる。
大胡	No.18	山麓・山里	○水域： 寺沢沼、寺 沢川 ○環境要素： 雑木林、畑 地、沼地、小 河川、草地		・寺沢沼周辺から、寺沢川沿いを通るルート。 ・畑地と森林が広範囲を占め、その中に住宅地が点在する。 ・河川は狭く、コンクリート護岸となっている。 ・過年度調査ルートの一部が私有地を通るため、今年度はルートを変更して行く。

表 2.2-1(4) 調査地点の環境概要

地区	地点 番号	地域区分	主な水域と 環境要素	環境写真	地点概要
宮城	No.20	山岳	○水域： 無し(河川を 含まない地 点) ○環境要素： 落葉樹、サ サ類(林床)		・登山道を通るルート。 ・落葉樹林が広がり、林床はササ類が繁茂している。 ・過年度調査ルートとして使用した登山道はなくなっているため、今年度はルートを変更して行う。
宮城	No.22	山麓・山里	○水域： 荒砥川 ○環境要素： 里地、広葉 樹林、小河 川、耕作地		・荒砥川沿いを通るルート。 ・林道沿いに広葉樹林が広がる。
粕川	No.24	里地	○水域： 粕川 ○環境要素： 住宅地、畑 地、河原		・粕川沿いを通るルート。 ・川幅は狭く、河川敷は植生が繁茂している。 ・畑地が広範囲に広がっている。

表 2.2-1 (5) 調査地点の環境概要

地区	地点 番号	地域区分	主な水域と 環境要素	環境写真	地点概要
富士見	No.25	山頂付近	○水域： 大沼 ○環境要素： 落葉樹、サ サ類(林 床)、湖畔	 	・大沼を半周するルート。 ・林道では落葉樹が広がり、林床はササ類が繁茂している。
富士見	No.27	山麓	○水域： 細ヶ沢川 ○環境要素： スギ植林、 畑地	 	・細ヶ沢川の上流端から山を登っていくルート。 ・スギ植林が広範囲を占め、一部に畑地がみられる。

3. 調査結果

3.1 調査実施日

調査実施日を、表 3.1-1 に示します。14 地点を 7 日間に分けて調査しました。

調査時間帯は、鳥類の鳴き声が確認しやすい夜明け頃（繁殖期：4 時半前後
越冬期：6 時半前後）からとしました。

表 3.1-1 調査実施日

	調査実施日	天候	調査地点
繁殖期（初夏期）調査	令和元年 6 月 1 日（土）	晴れ	No. 12、15
	6 月 2 日（日）	曇り	No. 20
	6 月 3 日（月）	晴れ	No. 8、11
	6 月 4 日（火）	晴れ	No. 22、24
	6 月 5 日（水）	曇り	No. 18、27
	6 月 6 日（木）	晴れ	No. 1、4、25
	6 月 7 日（金）	曇り	No. 6、9
越冬期（冬季）調査	令和元年 12 月 17 日（火）	晴れ	No. 18
	12 月 18 日（水）	晴れ	No. 22、25、27
	12 月 19 日（木）	曇り	No. 20、24
	12 月 20 日（金）	晴れ	No. 12、15
	12 月 21 日（土）	曇り	No. 1、6、8
	12 月 22 日（日）	曇り	No. 4、9、11

3.2 調査結果

(1) 確認種数

調査地点別の確認種数を表 3.2-1 及び図 3.2-1 に、確認種一覧を表 3.2-2 に示します。各地点の調査ルート距離・調査面積、各種の確認個体数は、「資料編 2. 個体数優占度等一覧」に示します。

現地調査の結果、外来種であるコジュケイやカオジロガビチョウを含め、繁殖期（初夏）では 34 科 58 種、越冬期（冬季）30 科 60 種、2 期合計で 36 科 79 種の鳥類を確認しました。

地点間での通年の確認種数を比較すると、No.25（29 種）で最も確認種数が多く、次いで No.9（28 種）、No.6・No.8・No.11・No.18・No.24（27 種）の順で多くみられました。その他の地点は 18～25 種であり、最も少なかったのは No.15（18 種）でした。

調査対象地は、平坦地や丘陵地、山地の樹林、耕作地、住宅地や市街地、河川や池沼等の環境要素で構成されています。確認種は、こうした環境を反映し、ジュウイチやハイタカなどの樹林に生息する種、ウグイスやホオジロ等の林縁周辺に生息する種、キジやヒバリ等の草地や耕作地に生息する種、バンやカワセミ等の水域周辺に生息する種、ツバメやスズメ等の人家周辺に生息する種などで構成されています。

表 3.2-1 調査地点別の確認種数

地区・地点 調査時期	清里・総社	元総社・東	南橋	芳賀	本庁	桂萱・永明・城南		上川淵・下川淵	大胡	宮城		粕川	富士見		計
	No.1	No.4	No.6	No.8	No.9	No.11	No.12	No.15	No.18	No.20	No.22	No.24	No.25	No.27	
繁殖期(初夏)	17種	15種	16種	13種	11種	15種	17種	13種	15種	22種	19種	15種	22種	12種	58種
越冬期(冬季)	20種	17種	23種	24種	22種	24種	22種	13種	22種	8種	16種	23種	12種	21種	60種
通年	25種	20種	27種	27種	28種	27種	25種	18種	27種	25種	25種	27種	29種	25種	79種

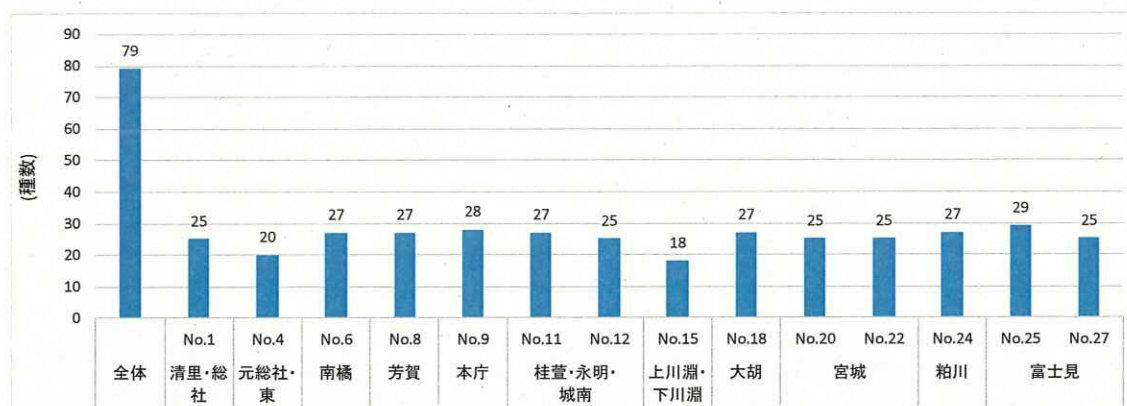


図 3.2-1 調査地点別の確認種数

No.	科名	種名	調査地点No.															確認 地点数	前橋市 における	主に 見られる 環境	重要種
			1	4	6	8	9	11	12	15	18	20	22	24	25	27					
1	キジ	ヤマドリ												◎				1	留鳥	森林	
2		キジ	◎								◎		◎				△	4	留鳥	草地	
3	カモ	ヒドリガモ						△										1	冬鳥	水辺	
4		マガモ											○					1	冬鳥	水辺	
5		カルガモ	◎	●	●	○	○			●	●	△			◎	◎		10	留鳥	水辺周辺	
6		ハシビロガモ										△						1	冬鳥	水辺	
7		オナガガモ						△										1	冬鳥	水辺	
8		コガモ			○	○	○						○					4	冬鳥	水辺	
9		ホシハジロ										△						1	冬鳥	水辺	
10		キンクロハジロ										△				○		2	冬鳥	水辺	
11		ミコアイサ										△						1	冬鳥	水辺	
12		カワアイサ						○										1	冬鳥	水辺	
13	カイツブリ	カイツブリ					○					●						2	留鳥	水辺	
14		カンムリカイツブリ						○										1	冬鳥	水辺	
15	ハト	キジバト	●	●	●	●	○	●	●	●	●	◎	◎	●		●		13	留鳥	森林周辺	
16	ウ	カワウ		○	○	○	●			●					○	◎		7	留鳥	水辺	
17	サギ	アオサギ	△			●				●	○	△		◎				6	留鳥	水辺周辺	
18		ダイサギ			○		○											2	冬鳥	水辺周辺	
19	クイナ	バン										○						1	冬鳥	水辺	
20		オオバン								○		△						2	冬鳥	水辺	※
21	カッコー	ジュウイチ											◎					1	夏鳥	森林	※
22		ホトギス														◎		1	夏鳥	森林周辺	
23		カッコー											◎					1	夏鳥	草地周辺	※
24	シギ	クサシギ		△														1	冬鳥	水辺	
25		イソシギ									△							1	冬鳥	水辺	
26	タカ	トビ	△		○	△		○	●	△				△	◎	●	○	10	留鳥	その他	
27		ハイタカ						○										1	冬鳥	森林周辺	※
28		オオタカ	△		○							◎						3	留鳥	森林周辺	※
29		ノスリ	△			△		●						◎	○	○	○	7	留鳥	森林周辺	
30	カワセミ	カワセミ			◎	○						○						3	留鳥	水辺	
31	キツツキ	コゲラ	○					●		○	○	●	◎		●	◎		8	留鳥	森林周辺	
32		アカゲラ	△				○					○			○			4	冬鳥	森林	
33		アオゲラ	○		△							△	◎			◎		5	留鳥	森林	
34	モズ	モズ	○	●	●	○	○	●	○		●				●			9	留鳥	草地	
35	カラス	カケス	△			○		○			○	◎			○		○	7	留鳥	森林	
36		オナガ	△	◎			◎				△				○			5	留鳥	森林周辺	
37		ハシボソガラス	●	●	◎	○	○			●			●	●	●			8	留鳥	その他	
38		ハシブトガラス	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14	留鳥	その他	
39	シジュウカラ	コガラ											●					1	留鳥	森林周辺	
40		ヤマガラ										○	◎	◎		◎	○	5	留鳥	森林周辺	
41		ヒガラ											●			◎		2	留鳥	森林周辺	
42		シジュウカラ		△	●		◎	●		◎	●	◎	●	◎	○	◎	●	11	留鳥	森林周辺	
43	ヒバリ	ヒバリ	◎		◎					●	◎				◎			5	留鳥	草地	
44	ツバメ	ツバメ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎				11	夏鳥	人家周辺	
45		イワツバメ		◎			◎											2	夏鳥	その他	
46	ヒヨドリ	ヒヨドリ	●	●	●	●	●	●	○	○	●		●	●	○	●		13	留鳥	森林周辺	
47	ウグイス	ウグイス	○		○		◎	○			●	◎	◎		◎	●		9	留鳥	森林周辺	
48		ヤブサメ										◎				◎		2	留鳥	森林	
49	エナガ	エナガ						●				◎	○		●	○		5	留鳥	森林周辺	
50	ムシクイ	エゾムシクイ											◎					1	夏鳥	森林	
51		センダイムシクイ														◎		1	夏鳥	森林	

表 3.2-2(1) 確認種一覧

No.	科名	種名	調査地点No.															確認 地点数	前橋市 における	主に 見られる 環境	重要種
			1	4	6	8	9	11	12	15	18	20	22	24	25	27					
52	メジロ	メジロ	●	○	○	△	○	○			●			○	◎	◎	10	留鳥	森林周辺		
53	ヨシキリ	オオヨシキリ							◎								1	夏鳥	草地		
54	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ										○			●		2	留鳥	森林		
55	キバシリ	キバシリ										◎					1	留鳥	森林	※	
56	ミソサザイ	ミソサザイ									△	◎				○	3	留鳥	水辺周辺/森林		
57	ムクドリ	ムクドリ	●	●	●	◎	●	●	●	●			◎	●			10	留鳥	人家周辺		
58	カワガラス	カワガラス											○				1	冬鳥	水辺		
59	ヒタキ	クロツグミ													◎		1	夏鳥	森林		
60		シロハラ				○		○			○		○				4	冬鳥	森林周辺		
61		アカハラ													◎		1	留鳥	森林周辺		
62		ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	12	冬鳥	森林周辺		
63		コルリ											◎			◎		2	夏鳥	森林	
64		ルリビタキ												○			○	2	冬鳥	森林周辺	
65		ジョウビタキ	○	○	○	○	○	△		△	△				○			9	冬鳥	森林周辺	
66		サメビタキ														◎		1	夏鳥	森林	
67	コサメビタキ														◎		1	夏鳥	人家周辺/森林	※	
68	キビタキ											◎	◎		◎	◎	4	夏鳥	森林		
69	オオルリ												◎				1	夏鳥	森林		
70	スズメ	スズメ	●	●	●	●	●	●	●	●	◎			●	●		○	12	留鳥	人家周辺	
71	セキレイ	キセキレイ	△	△		○			△					○	○	◎	○	8	留鳥	水辺周辺	
72		ハクセキレイ	●	●	○	●	○	○	○	●				○	○			10	留鳥	水辺周辺	
73		セグロセキレイ	●	●	▲	●	○	●	●	●	△		◎	◎	●		△	12	留鳥	水辺周辺	
74		ビンズイ					○						◎					2	留鳥	森林周辺	
75	アトリ	アトリ														○	△	2	冬鳥	森林	
76		カワラヒワ	●	●	●	●	△	◎	○	●	○			●	●		●	12	留鳥	森林周辺	
77		マヒワ														△		1	冬鳥	草地	
78		ベニマシコ															○	1	冬鳥	草地	
79		シメ	○	△		○		○	○		△				○			7	冬鳥	森林	
80	ホオジロ	ホオジロ	●		●	●	○	○	●	○	●	●	●	●	○	●	13	留鳥	森林周辺		
81		カシラダカ						○			○						○	3	冬鳥	森林周辺	
82		アオジ	○		○		○		○	△	○		○	△	○	○		10	冬鳥	森林周辺	
(83)	キジ	コジュケイ	◎			●		◎						●	○			5	-	森林周辺	
(84)	ハト	カワラハト	△	●	●	●	◎	○	●	◎					△			8	-	人家周辺	
(85)	インコ	ホンセイインコ		○														1	-	人家周辺	
(86)	チメドリ	ガビチョウ									◎		▲			●		3	-	人家周辺	
(87)		カオジロガビチョウ	●		●	◎		●	●		●		●	●				9	-	森林周辺	
合計	37科	86種	25種	20種	27種	27種	28種	27種	25種	18種	27種	25種	25種	27種	29種	25種	-	-	-	7種	

表 3.2-2(2) 確認種一覧

注1) 種の分類及び配列は、「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会、2012年)に従いました。

注2) 種No.及び種名に()を付した種は、外来種及び飼育種です。

注3) 表中の記号凡例

◎:繁殖期のみ確認 ○:越冬期のみ確認 ●:2期で確認 ▲:繁殖期に調査時間・範囲外で確認

△:越冬期に調査時間・範囲外で確認

注4) ▲及び△は各地点合計種数にはカウントしていません。

注5) 渡り区分

「渡り区分」は、基本的に「群馬県鳥類目録 2012」(日本野鳥の会群馬、平成26年4月)に基づきましたが、前橋市における生息状況と著しく異なる種については、前橋市を基準として判断しました。

留鳥、夏鳥、冬鳥の定義は、以下のとおりです。なお、今回の調査における確認状況とは、必ずしも一致しない場合があります。

【凡例】

○留鳥:一年中、ほぼ同じ場所で生活する鳥。あるいは、その地域で見られる鳥。

○夏鳥:日本で繁殖するため、春～初夏に南の国から渡って来て、秋に帰る鳥。

○冬鳥:日本で越冬するため、秋に北の国から渡って来て、春に北の国へ帰って繁殖する鳥。

注6) 主に見られる環境

【凡例】

○森林(森林内～林縁部) ○森林周辺(森林内～林縁部、草地、農耕地) ○水辺(水域及び水辺周辺)

○水辺周辺(水辺周辺～草地、荒地、農耕地) ○草地(草地～農耕地、荒地) ○人家周辺(人家周辺～農耕地、林縁部)

○その他(生息環境の広い種または主に上空で観察される種)

注7) 重要種

※を付した種は、「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編(2012年改訂版)」(群馬県、2012年)などに該当する種です。

		
オオヨシキリ	カケス	ジョウビタキ
		
キジ	コガラ	ノスリ
		
トビ	ハクセキレイ	コガモ
		
ホオジロ	ビンズイ	カシラダカ
		
ヒバリ	アオサギ	クサシギ

写真 3.2-1 確認種（一部）※写真は本年度調査時に撮影したもの

(2) 重要種の確認状況

ア.) 重要種の選定基準

重要種の選定基準は、表 3.2-3 に示すとおりです。また、「環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」及び「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編（2012 年改訂版）」におけるカテゴリーの内容を、表 3.2-4 に示します。

表 3.2-3 重要種の選定基準

No.	選定基準
1	「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号）
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号）
3	「環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」（環境省報道発表資料） ※環境省レッドリスト 2019（第 4 次レッドリストの第 4 回改訂版）（平成 31 年 1 月発表）
4	「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編（2012 年改訂版）」 （群馬県版レッドデータブック）

表 3.2-4 環境省版レッドリスト及び群馬県版レッドデータブックにおけるカテゴリー

略称	区分	基本概念
EX	絶滅	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
EW	野生絶滅	飼育・栽培下でのみ存続している種
CR EN	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
CR	絶滅危惧ⅠA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN	絶滅危惧ⅠB類	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
VU	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリー ^注 に移行することが確実と考えられるもの
NT	準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種。 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリー ^注 に移行する要素を有するもの
DD	情報不足	評価するだけの情報が不足している種

注）「環境省レッドリストカテゴリーと判定基準（2012）」では“カテゴリー”を、「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編（2012 年改訂版）」では“ランク”という語句を使用しています。

イ.) 重要種の確認状況

確認した重要種は、オオバン、カッコウ、ジュウイチ、ハイタカ、オオタカ、キバシリ、コサメビタキの計7種です(表3.2-5参照)。

調査した14地点のうち重要種を確認したのは、No.1、No.6、No.11、No.12、No.15、No.18、No.20、No.25の計8地点でした。

重要種の確認位置は、「資料編1. 調査ルート及び重要種・外来種確認位置」に示します。

表 3.2-5 重要種の確認状況

No.	科名	種名	清里・総社	元総社・東	南橋	芳賀	本庁	桂萱・永明・城南	上川淵・下川淵	大胡	宮城		粕川	富士見		重要種選定基準		
			1	4	6	8	9	11	12	15	18	20	22	24	25	27	環境省	群馬県
1	クイナ	オオバン							○		△							NT
2	カッコウ	ジュウイチ										◎						NT
3		カッコウ										◎						NT
4	タカ	ハイタカ						○									NT	NT
5		オオタカ	△		○					◎								NT
6	キバシリ	キバシリ										◎						DD
7	ヒタキ	コサメビタキ													◎			DD
合計	5科	7種	—	—	1種	—	—	1種	1種	1種	—	3種	—	—	1種	—	2種	7種

注1) 種の分類及び配列は、「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会、2012年)に従いました。

注2) 重要種選定基準

- ・「文化財保護法」及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)に該当する種は、確認されませんでした。
- ・環境省RL(H24.8):「環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)」(第4次レッドリストの公表について)
NT: 準絶滅危惧
- ・群馬県RDB(H24.12):「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編(2012年改訂版)」(群馬県、平成24年12月)
NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足

注3) 表中の記号凡例

◎: 繁殖期のみ確認 ○: 越冬期のみ確認 △: 越冬期に調査時間・範囲外で確認

注4) △は各地点合計種数にはカウントしていません。



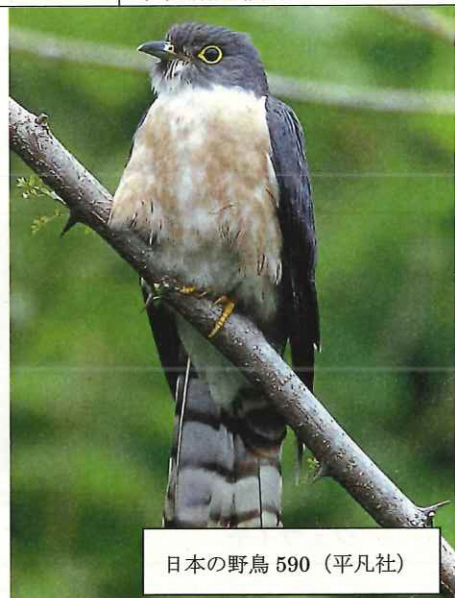
写真 3.2-2 確認した重要種(一部)

各重要種の確認状況は、以下に示すとおりです。

オオバン（クイナ科）	環境省 RL	—
	群馬県 RDB	準絶滅危惧
○生息環境：平地帯、湖沼、池 ○生態の特性：種子や水草など植物質が主な餌であるが、昆虫類など小動物も食べる。分布が局所的で東部、中央部地域以外では見られなかったが、近年（H26年の情報）、冬鳥として渡来する個体が増加している。 ○生息を脅かす主な要因：開発行為。繁殖地は、水生植物が豊富な平地の湖沼で、開発や釣り人等による人為的な影響を受けやすい。		
○確認状況 ・ No.12、No.18（範囲外・時間外）の2地点で確認した。 ・ No.12：越冬期に池で1羽確認した。 ・ No.18：越冬期に寺沢湖で2羽を確認した。		



ジュウイチ（カッコウ科）	環境省 RL	—
	群馬県 RDB	準絶滅危惧
○生息環境：山地帯、夏緑広葉樹林 ○生態の特性：オオルリ、コルリ、ルリビタキ、コマドリ、ビンズイ、ノビタキ、クロツグミ、アカハラ、キビタキ、コサメビタキなどに托卵する。 ○生息を脅かす主な要因：開発行為、その他(托卵対象種の減少等)。 個体数は生息環境の減少のほか、托卵対象種の個体数に依存するので、開発などによる托卵対象種の減少が危険要因となる。		
○確認状況 ・ No.20 の1地点で確認した。 ・ No.20：繁殖期に落葉広葉樹林で休息している個体を1羽、さえずりを2例確認した。		



カッコウ（カッコウ科）	環境省 RL	—
	群馬県 RDB	準絶滅危惧
○生息環境：平地帯、亜山地帯、山地帯、高山帯・亜高山地、草原、河川(河川敷)、市街地 ○生態の特性：ホオジロ、アオジ、オオヨシキリ、コヨシキリ、モズ、アカモズ、キセキレイ、セグロセキレイ、オナガなどに托卵する。 ○生息を脅かす主な要因：開発行為、その他(托卵対象種の減少等)。個体数は生息環境の減少のほか、托卵対象種の個体数に依存するので、開発などによる托卵対象種の減少が危険要因となる。		
		 日本の野鳥 590 (平凡社)
○確認状況 ・ No.20 の 1 地点で確認した。 ・ No.20：繁殖期に落葉広葉樹林で、さえずりを 1 例確認した。		

ハイタカ（タカ科）	環境省 RL	準絶滅危惧
	群馬県 RDB	準絶滅危惧
○生息環境：平地帯、亜山地帯、山地帯、夏緑広葉樹林、常緑広葉樹林、混交林、畑、河川(河川敷) ○生態の特性：山地の森林で繁殖し、冬季は平地に移動する個体もいる。主に小鳥を餌とする。市街地や人里に分布を広げた近縁のオオタカやツミに比べ、生息状況は不明な点が多い。 ○生息を脅かす主な要因：開発行為、伐採・植林。山地帯のカラマツやツガなどの針葉樹を好んで営巣するため、伐採や開発の影響を受けやすい。営巣林周辺の伐採、騒音や振動などが繁殖に影響を及ぼすことが懸念される。		
		 日本の野鳥 590 (平凡社)
○確認状況 ・ No.11 の 1 地点で確認した。 ・ No.11：越冬期の荻窪城跡でツグミを襲う雌成鳥 1 羽を確認した。(採食失敗)		

オオタカ（タカ科）	環境省 RL	準絶滅危惧
	群馬県 RDB	準絶滅危惧
○生息環境：平地帯、亜山地帯、山地帯、夏緑広葉樹林、常緑広葉樹林、混交林、畑、河川(河川敷) ○生態の特性：平地帯から山地帯の森林で繁殖する留鳥。非繁殖期は、耕地や河原、ときに市街地でも見られる。近年、市街地の公園などで繁殖する個体もいる。主に鳥類を捕食するが、市街地でカワラバトやカラスを捕食する個体もいる。 ○生息を脅かす主な要因：開発行為、伐採・植林。里山で繁殖する個体の割合が増えたため、開発予定地で営巣地が発見されることが多い。営巣林周辺の伐採、騒音や振動などが繁殖に影響を及ぼすことが懸念される。		
○確認状況 ・No.1（範囲外・時間外）、No.6、No.15 の3地点で確認した。 ・No.1：越冬期に八幡川及びその周辺の農耕地でツグミを襲う若鳥 1羽を確認した。（採食不明） ・No.6：越冬期に桃ノ木川で、コガモを襲う1羽を確認した。（採食不明） ・No.15：繁殖期に八幡山古墳で、警戒声を上げている成鳥 1羽を確認した。		



日本の野鳥 590（平凡社）

キバシリ（キバシリ科）	環境省 RL	—
	群馬県 RDB	情報不足
○生息環境：高山帯・亜高山地、常緑針葉樹林 ○生態の特性：亜高山帯の常緑広葉樹林に年間を通じて生息する留鳥である。 ○生息を脅かす主な要因：開発行為。生息地である亜高山帯の常緑針葉樹林は環境変化に弱く、短期間では回復しないため、開発行為が及ぼす影響が大きい。		
○確認状況 ・No.20 の1地点で確認した。 ・No.20：繁殖期に鳴き声を1例確認した。		



日本の野鳥 590（平凡社）

コサメビタキ（ヒタキ科）	環境省 RL	—
	群馬県 RDB	情報不足
○生息環境：亜山地帯、山地帯、夏緑広葉樹林、混交林 ○生態の特性：低山から山地の夏緑広葉樹林で繁殖する夏鳥である。開けた空間を利用し、飛翔性昆虫を捕食する。 ○生息を脅かす主な要因：開発行為、その他(不明)。開発などにより夏緑広葉樹林の開けた空間、主に里山の環境が失われたこともあるが、減少した理由には不明な点もある。		
日本の野鳥 590（平凡社）		
○確認状況 ・ No.25 の 1 地点で確認した。 ・ No.25：繁殖期の落葉広葉樹林で休憩する 2 羽を確認した。		

(3) 外来種の確認状況

外来種（外来生物）とは、国内外を問わず、もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって自然分布域外に入ってきた生物のことを指します。現在、世界各地で数多くの外来種が定着し、野生化することによって、在来の生物相や生態系に大きな影響を与え、時に人々の生活を脅かしていることが問題となっています。

ここでは、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）が対象とする「国外起源」の外来種の確認状況について述べます。（以後、特に示さない限り「外来種」とは国外起源のものを指します。）

ア.) 外来種の選定基準

外来種の選定基準は、表 3.2-6 に示すとおりです。また、外来生物法によって指定されている「特定外来生物」及び「要注意外来生物」について、基本概念を表 3.2-7 に示します。

表 3.2-6 外来種の選定基準

No.	選定基準
1	「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）（平成 16 年 法律第 78 号）（特定外来生物等一覧：平成 30 年 4 月 1 日更新）
2	「我が国の生態系に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」（平成 28 年 3 月更新）
3	「外来種ハンドブック」（日本生態学会編集、平成 14 年、地人書館）

表 3.2-7 「特定外来生物」の基本概念

区分	基本概念
特定外来生物	外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定されています。生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます。

イ.) 外来種の確認状況

確認した外来種は、コジュケイ、カワラバト、ホンセイインコ、ガビチョウ、カオジロガビチョウの計 5 種です（表 3.2-8 参照）。このうち、外来生物法の該当種は、ガビチョウ、カオジロガビチョウの 2 種（2 種とも、特定外来生物）です。

調査した 14 地点のうち外来種を確認したのは、No.20、No.25 を除く 12 地点でした。

平成 26 年度の報告と同様に、明治時代以前の移入種であるカワラバトを除く外来種 4 種の確認位置は、「資料編 1. 調査ルート及び重要種・外来種確認位置」に示します。

今回調査では、前回（平成 26 年度）の調査では確認されていない外来種は確認されませんでした。

カオジロガビチョウは、8 地点で確認、ガビチョウを 3 地点で確認しました。このうち 2 地点は、カオジロガビチョウと同地点での確認でした。

No.	科名	種名	清里・総社	元総社・東	南橋	芳賀	本庁	桂萱・永明・城南	上川淵・下川淵	大胡	宮城		粕川	富士見		外来種選定基準 ^{注)2}			
			1	4	6	8	9	11	12	15	18	20	22	24	25	27	外来生物法	外来種リスト	外来種ハンドブック
1	キジ	コジュケイ	◎			●		◎				●	○					○	
2	ハト	カワラバト	△	●	●	●	◎	○	●	◎				△				○	
3	インコ	ホンセイインコ		○														○	
4	チメドリ	ガビチョウ								◎		▲			●	特定	○	○	
5		カオジロガビチョウ	●		●	◎		●	●		●	●	●			特定	○	○	
合計	4科	5種	2種	2種	2種	3種	1種	3種	2種	1種	2種	—	2種	2種	—	1種	2種	4種	5種

表 3.2-8 外来種の確認状況

注 1) 種の分類及び配列は、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（日本鳥学会、2012 年）に従いました。

注 2) 外来種選定基準

・外来生物法：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）（平成 16 年 法律第 78 号）（特定外来生物等一覧：2014 年 8 月 1 日更新）

特定：特定外来生物

・外来生物リスト：「我が国に定着している外来生物のリスト（暫定版）」（平成 18 年、特定外来生物等専門家会合（第 7 回資料））

・外来種ハンドブック：「外来種ハンドブック」（日本生態学会編集、平成 14 年、地人書館）

※なお、外来生物法では、明治時代以降の移入種を対象としています。

◎：繁殖期のみ確認 ○：越冬期のみ確認 ●：2 期で確認 ▲：繁殖期に調査時間・範囲外で確認

△：越冬期に調査時間・範囲外で確認

注 3) 調査時間外・調査範囲外でのみ確認した種は▲及び△で表示しており、種数にはカウントしていません。

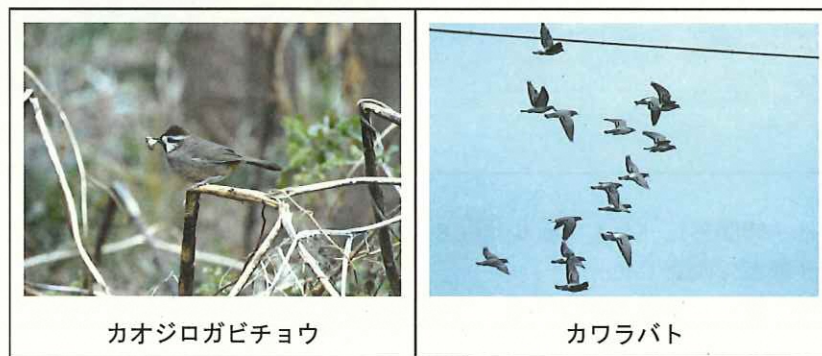


写真 3.2-3 確認した外来種（一部）調査時に撮影

各重要種の確認状況は、以下に示すとおりです。

コジュケイ（キジ科）	外来生物法	—
	外来生物リスト	該当
	外来種ハンドブック	該当
○群馬県内の生息状況 ・平野部から山地帯までの低木林や農耕地に広く生息する。個体数も多かったが、近年、やや減少傾向にある。		
		 日本の野鳥 590 (平凡社)
○確認状況 ・No. 1、No. 8、No. 11、No. 22、No. 24 の 5 地点で確認した。 ・No. 1：繁殖期及び越冬期に住宅地内の樹林で確認した。繁殖期には家族でいる様子を確認した。 ・No. 8：繁殖期に住宅地内の樹林でさえずりを 1 例、越冬期に畑脇で 1 羽確認した。 ・No. 11：繁殖期に荻窪城跡でさえずりを 1 例確認した。 ・No. 22：荒砥川河畔林で繁殖期にさえずり 1 例と鳴き声を 2 例、越冬期にさえずり 1 例を確認した。 ・No. 24：越冬期に草地で鳴き声を 1 例確認した。		

カワラバト（ハト科）	外来生物法	—
	外来生物リスト	—
	外来種ハンドブック	該当
○群馬県内の生息状況 ・県内各地普通にみられる。寺社や公園などに多い。		
		 日本の野鳥 590 (平凡社)
○確認状況 ・No. 1（範囲外・時間外）、No. 4、No. 6、No. 8、No. 9、No. 11、No. 12、No. 15、No. 24（範囲外・時間外）の 9 地点で確認した。 ・繁殖期及び越冬期に、市街地や住宅地、自社、公園、農耕地、河川敷等で確認した。		

ホンセイインコ（インコ科）	外来生物法	—
	外来生物リスト	該当
	外来種ハンドブック	該当
○群馬県内の生息状況 ・前橋市総社神社とその周辺にみられる。1985 年頃から観察されるようになり、1999 年の時点で 20 羽ほどが観察されている（上毛新聞 1999. 3. 21）。現在の生息個体数等は不明である。		
 日本の野鳥 590（平凡社）		
○確認状況 ・No. 4 の 1 地点で確認した。 ・No. 4：越冬期に住宅地上空を飛翔している個体を 10 羽確認した。		

ガビチョウ（メチドリ科）	外来生物法	特定外来生物
	外来生物リスト	該当
	外来種ハンドブック	該当
○群馬県内の生息状況 ・1999. 6. 28 に藤岡氏庚申山で観察された（福田 2000）のが、最初の記録である。その後、急速に分布を拡大し、現在では県西部を中心に、広い範囲に生息している。		
 外来種ハンドブック（日本生態学会）		
○確認状況 ・No. 18、No. 22（範囲外・時間外）、No. 27 の 3 地点で確認した。このうち、No. 18、No. 22 の 2 地点では、カオジロガビチョウも確認した。 ・No. 18：繁殖期に林内でさえずり 3 例を確認した。 ・No. 22：繁殖期に藪内でさえずり 2 例を確認した。 ・No. 27：繁殖期及び越冬期に藪内でさえずりを各 1 例ずつ確認した。		

カオジロガビチョウ (メチドリ科)	外来生物法	特定外来生物
	外来生物リスト	該当
	外来種ハンドブック	該当
○群馬県内の生息状況 ・1990年4月に、みどり市大間々町で観察された(浅川 2000)のが、最初の記録である。その後、赤城山の南面に沿った地域で分布を拡大し、現在は、県の南東部を中心に、比較的広い範囲に生息している。		
 進入生物データベース (国立環境研究所) ©東條一史		
○確認状況 ・No. 1、No. 6、No. 8、No. 11、No. 12、No. 18、No. 22、No. 24 の8地点で確認した。 ・No. 1：繁殖期及び越冬期に耕作地の笹藪、住宅地の庭木でいずれも2～5羽で採餌、休息をする個体の小群を確認した。 ・No. 6：繁殖期及び越冬期に畑や庭木を利用しているいずれも3～8羽を確認した。 ・No. 8：繁殖期に農耕地で鳴いている約13羽、越冬期に農耕地を利用している1羽を確認した。 ・No. 11：繁殖期及び越冬期に農耕地を利用しているいずれも1～2羽を確認した。 ・No. 12：繁殖期に住宅の庭木で鳴いている1羽、越冬期に河川敷で休憩している1羽を確認した。 ・No. 18：繁殖期及び越冬期に農耕地など全域でそれぞれ計30羽ほどの個体を確認した。 ・No. 22：繁殖期には藪内で18羽を確認した。越冬期には庭木の実を食べる個体を4羽、草地や樹林で鳴いている個体を5羽確認した。 ・No. 24：河川敷で繁殖期には鳴いている9羽、越冬期には採餌する6羽を確認した。		

(4) 調査地点別の確認状況

調査地点別の確認状況は、以下に示すとおりです。

特定外来生物のカオジロガビチョウ及びガビチョウと、在来種のウグイスは、生息環境の競合が懸念されることから、現時点における確認個体数を併せて示します。

No.1 (清里・総社地区)

項 目	確認状況
確認種数	○確認種数：25 種（繁殖期（初夏）：17 種、越冬期（冬季）：20 種）
重要種	○重要種数：－ ・時間外もしくは範囲外で重要種のオオタカを確認した。
外来種	○外来種数：2 種（コジュケイ、カオジロガビチョウ） ・時間外もしくは範囲外で外来種のカワラバトを確認した。
特筆すべき点	－
確認状況と 環境との関連	・樹林ではシメやコゲラなど、林縁周辺ではホオジロなど、畑地ではヒバリやツグミなど、住宅地ではスズメやムクドリなどを確認した。 ・八幡川は、流れも緩く、草地のある中州や、砂地や礫地など環境の変化に富み、水辺に生息するカルガモやセキレイ類などを確認した。ただ、ヨシ原等の高茎草地は乏しい。 ・八幡川およびその周辺の耕作地でオオタカ（範囲外・時間外）を確認した。耕作地と隣接した樹林でツグミを狩りした他、同様の環境の落葉広葉樹に停留し、探餌と休息を行っていた。 ・カオジロガビチョウは、繁殖期、越冬期共に 11 羽を確認し、ウグイスは越冬期に 2 羽を確認した。 ・市街地の自然環境としては多様性があり、野鳥の種構成や生息数は比較的安定していると考えられる。    河畔林 畑地 八幡川